



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.24

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の活動は、従来の啓発活動にも大きな影響を与えています。婦人会では、少数精鋭で、三密を避けて活動を続けています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

<結核予防婦人会秋田県連合会>

8月3日（月）、結核予防会秋田県支部と一緒に、県庁を訪問し、佐竹敬久知事に「複十字シール運動」の協力依頼を行いました。小玉喜久子会長は、新型コロナウイルスに感染を恐れて、医療機関の受診を控える結核患者がいるので、早期発見などの啓発活動が例年以上に重要になることを伝えました。

佐竹知事からは、結核などの胸部疾患がある人がコロナに罹患すると重症化することを懸念しているので、運動を頑張ってくださいとエールをいただきました（写真1、2）。

この模様は、翌日の秋田魁新報に写真入りで掲載されました。



写真1 令和2年度知事表敬訪問（8月3日、秋田県庁3階第一応接室）
1枚目左より吉田副会長、佐竹知事、小玉会長、長谷川副会長、村上専務理事兼事務局長（秋田県支部）



写真2 小玉会長（右）の説明に佐竹知事（左）が頑張ってくださいと励ましてくださいました。

例年、シール運動の開始は、8月に入ってすぐに始めるのですが、コロナ禍で開始が遅れています。従来は婦人会員が全戸を訪問し、「家庭でできる結核予防の活動募金です」と声掛けしながら文書（資料）やパンフレットとお渡しして、シール募金を行っています。しかし、三密を避けるなど、感染予防をしながら訪問するには工夫が必要です。また、全戸訪問に対して不安を感じている会員もいるのは事実で、活動保留中となっている地域もあります。

コロナの収束が見えない中、会員はいろいろ苦勞をしていると思いますが、今までと違うやり方でも、まだWEB会議に挑戦できていなくても、何かできることから始めるという気持ちを大切に、活動の歩みは止めない予定です。

資料 湯上市長と飯田川結核予防婦人会長の連名で、飯田川地区の市民に呼び掛けた、「複十字シール運動への御協力について（お願い）」の文書

